

番号	名前	姓、通称	身分	給	禄高	年齢	役職	備考
15	維足	吉武維足						
16	信親	野口丈次郎	町人／下級 武士			41（「竈」）	嘉永5野口丈次郎信親（「近」） 嘉永7新御歩行、穀問屋、丸散店、呉服町（「竈」）	
17	豊苗	緒方豊苗						
18	千竹	原口千竹						
19	安貞	野中源兵衛	町人／下級 武士			文政10～元治 2（「佐」）	慶応2足軽（「加」）	
20	宗雄	新郷宗雄						
21	清石	緒方清石						
22	義隣	鬼崎義隣						
23	竹弘	杉野竹弘						解題参照
24	元祐	改善院元祐						
25	佐多子	鍋島直正	藩主			42		
26	柏子	柏子						
27	遊布	遊布						松根妻
28	嘉保	城島與四右衛門	侍				興讓館文武方（「町」） 安政6佐賀聞番（「小」） 物成31石・中小路（「着」）	小城
29	嘉樹	城島嘉樹						小城
30	知愛	徳見逸作	侍				慶応1野戦銃役士（「小」） 物成20石（献金士）・西小路（「着」）	小城
31	宗肅	村崎卜斎	侍				文化7～明治4（「町」） 物成30石・下岡小路（「着」）	小城
32	年恒	末永年恒						小城

付録 関係人物情報① 『小車集』掲載人物一覧

番号	名前	姓、通称	身分	給	禄高	年齢	役職	備考
1	方道	本島藤大夫	侍	物成	65	46	文政13御側出仕（「松」） 天保13奥小姓（「松」） 天保14御火術方懸合（「松」） 嘉永2御進物方・御火術方兼帯（「直」） 嘉永3豆州江川氏へ差越（「譜」） 嘉永4御進物役・外目御台場御増築方兼帯（「直」） 文久1侍従様御側目附方兼帯（「直」） 文久3御側頭（「直」） 慶応3側用人番頭格（「御」） 明治1御出陣方相談役（「直」）	
2	芳名	志波左転太	侍	物成	120	44	文政2御代様（直正）御遊御相手（「系」） 文政8江戸にて家督（「系」）⇒のち父親復帰 天保5再家督（「系」） 天保12奥小姓・御駕籠心遣兼帯（「古」） 天保14御火術方稽古人取立（「松」） 弘化1御火術方兼帯（「直」） 弘化3御石火矢方頭人兼帯（「直」） 弘化4御進物役（「直」） 嘉永5江戸留守居（「褒」）	
3	松根	古川與一	侍	米	18	44	万延1・文久1御小姓頭	総論参照
4	満春	今泉伝兵衛	侍	物成	20	47	安政4今津番所詰（「幕」） 文久1御仕組所書写役（「幕」） 慶応3請役所記録役兼帯（「御」）	蟹守の兄
5	景臣	山崎余五郎	侍	切米	20	49	弘化2御仕組所書写役（「褒」）	文久2死
6	穂主	古川源太郎	侍			16	明治2柳川へ御内使仰せ付け（「書」）	松根の子
7	鶴年	野口文郁	侍	切米	20	49	万延元・文久元御医師	
8	一枝	永田逸蔵	下級武士？			文化3生		
9	通清	下村武右衛門	手明鍵					
10	孝儀	江口大五郎（勢平）	手明鍵（「明」）				慶応2御進物方・御年寄手元兼（「伊」） 明治7除族（「処」）	
11	芳洲	中島芳洲						
12	春香	重松菅二（勘次）	下級武士？			文化12生 明治21死	嘉永5宮城繡介と名乗り、寺子屋を営む（「近」）	
13	古水	野中元右衛門	町人／下級武士			文化9～慶応3（「佐」）		
14	信之	鶴丸信之						

	姓、通称	身分	給	禄高	年齢	役職	備考
元興	副島左源太	侍	切米	20	41	安政3横辺田代官助役	
景陣	服部善左衛門	手明鍵	切米	11.2	安政6、53 (「手」)	万延元・文久元器械御取入方	
広長	増田忠八郎	侍	切米	25	42	万延元・文久元御進物役	
弘建	角麻之助	侍	物成	95	19		
恒久	横尾道碩	陪臣			嘉永7、43 (「竈」)	(医者?)	深堀鍋島家 来、「内治」
貞盟	相良宗蔵	侍	切米	20	33	万延元・文久元御什物役	
奇調	諸岡作左衛門	侍	物成	125	53	子・作太夫は文久元三御丸御番	
匡明	中野兵右衛門	侍	物成	255	39	安政4郡方附役	
信広	三上新九郎	侍	物成	150	41		
常維	徳島九兵衛	侍	切米	30	37	安政3御什物方書写役	
種虎	原田彦左衛門	侍	物成	120	29		
秀民	田村要七	手明鍵	切米	7	安政6、48 (「手」)	御山方附役(「安」)	草場磋助組

付録 関係人物情報② 「白縫集姓名録」に見る幕末の歌人たち（判明分）

	姓、通称	身分	給	禄高	年齢	役職	備考
一衛	宮島一右衛門忠卿	侍	切米	30	安政6、75		
鱒	草場瑳助	侍	切米	30	明治元、81	安政4弘道館助教	
有隣	南里傳作	侍	切米	25	元治元、54	万延元・文久元御什物役・御道具役	
穂蔵	嘉村源左衛門	侍				御側頭（弘化元）	
重遠	副島五郎大夫	侍	物成	130	47	安政3三御丸御番	
可然	鍋島山城直章	親類	物成	8110	文久元、80		白石鍋島家
好文	田中半之允	手明鑑	切米	15	文久2、52		
通文	牟田口節左衛門	侍	切米	40	明治24、85	安政4学館御目付	父藤右衛門は直正側近
雲叟	鍋島摂津守直与	三家	物成	21050	元治元、67		
晃増	太田蔵人	陪臣			明治15、76		小城鍋島家中
花守	柴田琴岡	陪臣			明治23、82		小城鍋島家中
元寿	南里十蔵	侍	切米	25	万延元、83		有隣父
弘褒	角十郎右衛門	侍	物成	95	文久2、71	安政5武具方・小物成方相談役（「直」）	
厚道	執行五郎右衛門	侍			安政5、78	天保9市武・横辺田代官（「直」）	
貞風	羽室平之允	侍	物成	165	弘化3、33か34	弘化2江戸留守居（「直」）	
種長	成富作兵衛	侍	物成	70.5	文久2、66	文久元御側頭（「譜」）	
髓蔵	岡本源右衛門	侍			嘉永4、77	天保10京・大坂聞番（「直」）	
元親	牧春堂	侍	切米	55	46	万延元・文久元御医師	
廣■	河内軍右衛門	侍	米	25.2	53	万延元・文久元御広式番	
季好	横山平兵衛	侍	物成	45	45	万延元・文久元御小姓頭	
方烈	高取次郎太郎	侍	切米	20	29	文久元御絵図方	
貞躬	相原丈之進	侍	切米	20	54	安政3御門御式台番、文久元聖堂御書物役	
惟精	大園寿兵衛	侍	切米	20	59	安政4学館教諭差次、文久元教諭	
徳隣	蒲原嘉右衛門	侍	切米	20	慶応元、52	安政3・文久元請役所書写役	
寛任	千住久左衛門	侍	物成	40	63	文久元千栗番所詰	
定雄	古賀一平	侍	切米	35	25	佐賀藩大参事など（「安」）	
彌種	原田小四郎	侍	切米	40	45	万延元・文久元御側頭	
長定	南部大七	侍	米	59	66	安政4御目付	
長虎	南部俊蔵	侍	米	59	20		大七の子
素外	岡本忠兵衛	侍	切米	105	40		
明矩	坂部又右衛門	侍	物成	400	57	文久元御武具方相談役	着座
如塊	伊東兵（部）左衛門	侍	物成	55.5	37	安政3・文久元御火術方助役	
種臣	副島二郎	侍	切米	30			
種香	田中善兵衛	侍	米	19.8	40	万延元・文久元海軍取調方	
茂族	多久与兵衛	親類同格	物成	8693.8	明治17、52		多久家
清通	牟田口藤右衛門	侍	切米	40	安政2、74	弘道館教諭、御側頭、御年寄役など（「安」）	
豊綏	西牟田玄才	侍	米	36	43	万延元・文久元御広式御医師	
幹治	千住新兵衛	侍	切米	30	30		
元照	原口愛次郎	侍	切米	55	14		

付録 関係人物情報③ 近藤芳樹来佐時（総論参照）の面会相手

名 前	備 考
野中元右衛門	総論を参照
枝吉平左衛門（神陽）	総論を参照
南里伝之介	総論を参照
古川与一（松根）	総論を参照
今泉伝兵衛	関係人物情報①を参照
山崎与五郎	関係人物情報①を参照
原五郎左衛門	侍、切米30石、代官・郡方附役など、49歳
重松勘次	解題を参照
今泉隼太（蟹守）	解題を参照
野口丈次郎（信親）	関係人物情報①を参照
武富	武富垣南か
草場瑳介（佩川）	侍、切米30石、安政4弘道館助教
三好左馬之進	足輕組頭
福島文蔵	侍、切米20石、56歳、安政4弘道館教諭
関半蔵	侍、物成28石、45歳、安政4郡方附役
犬塚文十郎	侍、切米20石、40歳、万延元若殿様御附
野口広一郎	侍、切米20石、42歳
横尾文吾	侍、切米25石、42歳、安政4請役所案文方書上方
光増治平（兵衛）	侍、切米20石、60歳、文久元桃川番所詰

※以上、第十二回地域学シンポジウム「幕末佐賀の歌人たち一直正と小車社一」（2018）於佐賀大学本庄キャンパスにおける発表、伊藤昭弘「佐賀藩における小車社の人びと」のレジュメより作成。

付録 関係人物情報 出典一覧

「直」	直正公御年譜地取（『佐賀県近世史料』1 - 11、佐賀県、2003）
「譜」	直正公譜（『佐賀県近世史料』1 - 11、佐賀県、2003）
「安」	生馬寛信・中野正裕「安政年間の佐賀藩士：藩士名簿「早引」、「石高帳」にみる」（『佐賀大学文化教育学部研究論文集』14(1)、2009）
「御」	「御間届（慶応3年）」（公益財団法人鍋島報効会所蔵鍋島文庫、以下同史料群は『鍋島文庫』と表記）
「古」	伊藤昭弘編『古文書に見る鍋島直正の藩政改革』（佐賀大学地域学歴史文化研究センター、2015）
「松」	杉本勲・酒井泰治・向井晃編『幕末軍事技術の軌跡－佐賀藩史料『松乃落葉』－』（思文閣出版、1987）
「明」	財団法人鍋島報効会（徴古館）編集・発行『明和八年佐賀城下屋敷御帳控』（2012）
「佐」	『佐賀藩幕末関係文書調査報告書』（佐賀県立図書館、1981）
「書」	「書取控（明治2～3年）」（『鍋島文庫』）
「処」	「処刑人名簿」（『鍋島文庫』）
「伊」	『伊万里市史資料編』（伊万里市、2007）
「加」	「加米帳」（『鍋島文庫』）
「着」	「小城着到」（『鍋島文庫』）
「褒」	「褒賞録」（『鍋島文庫』）
「系」	「系図（シの部）」（『鍋島文庫』）
「近」	久保田啓一・蔵本朋衣「山口県文書館蔵「近藤芳樹日記」翻刻（九）」（『内海文化研究所紀要』42、2014）
「竈」	三好不二雄・三好嘉子編『佐嘉城下町竈帳』（九州大学出版会、1990）
「町」	『小城町史』（小城町、1974）
「手」	生馬寛信・串間聖剛・中野正裕「幕末佐賀藩の手明鑑名簿及び大組編制－『安政六年 物成』及び『大組頭次第』による－」（『佐賀大学文化教育学部研究論文集』14(2)、2010）
「小」	青木歳幸・野口朋隆・田久保佳寛『『小城藩日記』にみる近世佐賀医学・洋学史料（後編）』（佐賀大学地域学歴史文化研究センター、2011）

※年齢で、出典のないものは「安政年間の佐賀藩士：藩士名簿「早引」、「石高帳」にみる」

※年齢について、「年＋年齢」「年＋生（死）」標記で出典のないものは中原勇夫編『今泉蟹守歌文集』（私家版、1971）に拠る。

※役職で、出典のないものは中野正裕「幕末期佐賀藩の役料帳について：史料翻刻『年役々料書出帳』『役料帳』（『佐賀大学地域学歴史文化研究センター研究紀要』6、2012）